

競技注意事項

1. 競技規則について

2023年日本陸上競技連盟規則および本競技会の申し合わせ事項により実施する。

2. 招集について

- ①選手招集は第3ゲートバックスタンド下で実施する。
- ②招集開始時刻に係員からアスリートビブスとスパイクの確認を受け、競技者係の誘導指示に従う。ただし、2種目を同時に兼ねて出場する選手は、最初の種目の招集完了時刻までに招集所に「多種目同時出場届」を提出すること。
- ③欠場する場合は、「欠場届」に必要事項を記入し、招集開始時刻までに招集所に提出すること。
- ④用紙（「多種目同時出場届」・「欠場届」）は正面玄関ホールのTICに置く。
- ⑤招集時刻（競技開始時刻を基準とする。）

トラック		フィールド					
予選・決勝		跳躍		やり投		砲丸・円盤・ハンマー投	
開始	完了	開始	完了	開始	完了	開始	完了
25分前	15分前	40分前	30分前	40分前	30分前	30分前	20分前

⑥携帯電話、スマートフォン、タブレット等の通信機器を招集所・競技エリア内に持ち込むことを禁止する。

3. アスリートビブスについて

- ①アスリートビブス（縦16cm×横24cm）は、男子は黒字、女子は赤字で明瞭に書き、必ず胸、背につけること。ただし、跳躍競技に出場する競技者は胸部または背部だけでよい。
- ②写真判定にともなう腰ナンバー標識は、右側後方につけること。

4. 競技の抽選および番組編成について

- ①予選におけるレーン順および競技順はプログラム記載の順序とする。なお決勝の組み合わせ（レーン順、試技順）は全て番組編成員が行う。
- ②タイムによるプラスの決定は、プラスの明示してある人数以内の同記録者数であれば次のラウンドへ進める。プラスの人数を超える同記録者が出た場合は、レーンに余裕があり、写真判定によっても着差が認められなければ、同記録の選手の出場を認める。レーンに余裕がない場合は、本人または代理人により抽選する。

5. 競技について

- ①競技者に対する助力については、TR. 6に準ずる。
- ②次の種目について、下記のタイムを超えて周回を残している場合、競技運営上フィニッシュ地点で競技を中止させるので、審判員の指示に従うこと。
少年男子共通5000mW、成年女子5000mW 27分
- ③三段跳の踏切板は、砂場から成年男子13m、少年女子共通10mの地点に設置する。
- ④男女走幅跳・三段跳の競技前練習について、試技順に「足合わせ1本」「公式練習2本」を行った後、競技開始時刻5分前までフリー練習とする。
- ⑤走高跳の競技前練習について、フリーで足合わせを行った後、競技順に事前に決められた高さでの「公式練習2本」とする。

6. 走高跳・棒高跳のバーの上げ方について

種別	種目	練習	バーの上げ方
少年男子A	棒高跳	任意の高さ	3m80-90-4m00-10-20 以降10cm刻み
少年共通男子	走高跳	1m70、1m80	1m75-80-85-88-91 以降3cm刻み
成年女子	走高跳	1m40、1m55	1m45-50-55-58-61-64 以降3cm刻み
成年女子	棒高跳	任意の高さ	2m80-90-3m00-10-20 以降10cm刻み
少年共通女子	走高跳	1m40、1m55	1m45-50-55-58-61 以降3cm刻み

※同記録による順位を決定するバーの上げ下げは走高跳2cm、棒高跳5cmとする。

※バーの上げ方（練習の高さを含む）については、天候等の状況により変更する場合がある。

7. 競技用具について

- ①競技に使用する用具は、棒高跳用ポール以外、競技場備え付けのものを使用しなければならない。ただし、やりについては、1人2個以下のものに限り、当日検査の上使用を認める。このとき、すべての競技者が使用できることが条件となる。
- ②やりの検査は競技開始の1時間前より40分前までに、100mフィニッシュ側の用器具庫で行う。やりには所属名を記入しておくこと。前回の検査済シールは剥がしておくこと。
- ③スパイクシューズは全天候型のピンを使用し、その長さは9mm以内とする。ただし、走高跳、やり投は12mm以内とする。いずれの場合もスパイクピンの数は11本以内とする。
- ④シューズ（スパイク、ランニングシューズ含む）の靴底（ソール）の厚さについては、レース後および競技中に確認することがある。

8. 練習について

- ①メイン競技場の練習時間帯は7：30～9：00とする。
補助競技場の練習時間帯は8：00～16：00までとする。
- ②メイン競技場・補助競技場とも競技場備え付けの用具を使用すること。ラダー、ミニハードル、ゴムチューブ等を使用してのスピード練習は禁止する。
- ③メイン競技場のレーンの使用は、1レーンは400m以上のスピード練習2レーンはジョグ専用、3～7レーンは短距離練習、8・9レーンはハードル練習とする。補助競技場のレーンの使用は、1レーンは400m以上のスピード練習2レーンはジョグ専用、3～6レーンは短距離練習、7・8レーンはハードル練習とする。
- ④補助競技場の跳躍練習について、助走練習のみ可能とする。ただし、使用した者で準備・片付けをすること。マットや踏切板の使用はできない。
- ⑤投てき練習（メディシンボール等を含む）は、競技場の内外を問わず一切禁止する。
- ⑥ウォーミングアップは補助競技場および室内練習場で行うこと。メイン競技場通路や駐車場周辺で、ダッシュ等のウォーミングアップは禁止する。
- ⑦室内練習場は、短距離系のスピード練習と長距離のジョグは混在しないように注意すること。また、走る方向は彦根城側から大型スクリーン側とする。砂場は使用不可とする。

9. その他

- ①競技会開催中における怪我については応急処置の他は責任を負わない。充分注意すること。
- ②テントはメインスタンド、サイドスタンドは禁止する。バックスタンドは可とするが、風で飛ばないように設置すること。各自、各チームが出したごみは持ち帰りを基本とする。各チームで使用した場所は責任をもって清掃し、競技場の環境美化に協力すること。
- ③貴重品、荷物類は各自で管理し、盗難等に十分注意すること。
- ④横断幕の設置は、サイドスタンドおよびバックスタンド最前列手すりとする。
- ⑤スマホ以外で撮影する場合は、玄関ホールのTICにて受付すること。撮影許可証は首からかけ、退場時に返却すること。大会で撮影した画像・動画等をSNS等へ投稿しないこと。